

奥武蔵ロゲイニングの開催、ナビゲーション講習会など、オリエンテーリングで培ったスキルでアウトドア界に一石を投じてきた TEAM 阿闍梨が、新たな企画を立ち上げた。それがチャレンジ！ナビゲーション 2013 だ。

## チャレンジナビゲーションのスタートに当たって(村越 真)

### チャレンジ！ナビゲーションとは？

数々のナビゲーション講習の講師を務める中で、阿闍梨のメンバーは、ナビゲーションに対する関心の広がりを感じてきた。その中にはオリエンテーリングをやってみよう！と考える参加者もいた。その数は決して多くない。しかし、自分たちが楽しんだオリエンテーリングを彼らにも楽しんでもらいたい。それは普及の原点ともなる。チャレンジ！ナビゲーションの発想はそこから生まれた。

そこで突き当たるのが、オリエンテーリングの現状だ。完成された競技スポーツとして、規則を知らなければ参加できないのは当然だ。だが、最初から競技規則を熟知した初心者などいない。スキルを高めたいという向上心を満たしながら、もっと気軽にオリエンテーリングの魅力を味わい、さらには仲間を広げる場が必要ではないだろうか。その視点からみた時、オリエンテーリングの大会には課題が多い。これまでの大会にも初心者指導コーナーがあった。しかし、ゲームの楽しさにつながる指導ができていたのだろうか？一方で、組織としては、他のスポーツのように日常的にオリエンテーリングの技量を磨く場も十分に提供されているとは言えない。

そこで考えられたのが、緩やかなクラブシステムの中で大会会場に向き、初心者にもオリエンテーリングを楽しんでもらおうという「クラブ阿闍梨」のアイデアだ。TEAM 阿闍梨のメンバーがアテンドし、初級者でも安心して参加できるコースを持つ大会や練習会を選び、参加する。場合によってはコー

スの前半と一緒にレクチャーしながら回り、後半は腕試しで個人やペアで回る。大会終了後は、メンバーでコースを振り返る時間を持つ。それによって、未知の森にチャレンジするナビゲーションのおもしろさを深め、オリエンテーリングを通して仲間を増やしてもらおうという趣旨だ。

## 目指すはオリエンテーリング文化とアウトドア文化の確立！

チャレンジ！ナビゲーションが提言することがさらに二つある。オリエンテーリングはレクリエーションじゃない、と言うオリエンティアがいる（私もその一人だ）。しかし、定期的にトレーニングに励み、また工夫されたスキル練習を定期的に行っているクラブやオリエンティアは、学生を除けばどの程度いるだろう。真の競技スポーツとなるためには、規則や大会システムといった外的な仕組みだけでなく、競技者の競い合い、挑戦するマインドという内的要因が不可欠だ。

初級者・初心者スキルアップの場を提供することで、オリエンティア一般にも通じる技術習得の場づくりや競い合い／スキルアップすることのおもしろさを感じられる場を生み出す方法論が確立できると期待している。「競い合う／高め合う楽しさ」はオリエンテーリング再生のキーワードの一つとなるだろう。

チャレンジ！ナビゲーションが目指すもう一つの理念は、ナビゲーションを通してリスクマネジメントの発想を広めることだ。トップオリエンティアのレースの振り返りを聞けば分かるように、ナビゲーションとはリスクマネジメントだといっても過言ではない。

危険度の高いクライミングや雪山には、リスクマネジメントの発想は欠かせないが、本来自然という不確実な環境で行う全てのアウトドア活動で、このことが強く意識される必要がある。

だが、一般のアウトドア活動者がリスクマネジメントの発想を持っていないことは、近年の山岳遭難の多さを見ても明らかだ。私自身、2月には、海、山でそれぞれ2人の知人を亡くした。ナビゲーションスキルを通してリスクマネジメントの考え方を伝えることができる。そうすれば、より多くの人にリスクマネジメントを身につけるチャ

ンスを提供できるのではないだろうか。

こうした長期の展望を持って、チャレンジ！ナビゲーションはスタートした。今年は手始めに、初心者・初級者を対象としたナビゲーションスキルやオリエンテーリングの練習の機会を実施するとともに、大会にも出かける予定である。

(村越 真)

## チャレンジナビゲーション

### レポート(田島利佳)

第1回のチャレンジ！ナビゲーション 2013 が6月23日(日)、埼玉県滑川町武蔵丘陵森林公園で開催されました。

この日は園内で『オリエンテーリングを楽しもう！』というイベントが行われ、埼玉県協会が運営をするようになっていたこと、また森林公園には正確なオリエンテーリング用地図があり常設コースが設置されていることから、事前に打ち合わせをさせていただき、そのイベントとコラボし、また常設コースを使った内容にしました。イベント側ではクイック0を用意していたので、こちらもテーマを『整置』としました。まずはクイック0をやってみて整置について学び、そこからコンパスを使った整置をして目的地に進む、さらにはこのシリーズは1年を通してより地図表現や地形を深く理解できるようにと主にオリエンテーリング用の地図を使うことにしているので、オリエンテーリング特有の地図記号を知り現地と対応させることを課題としました。

広報は1か月前にウェブのみを中心に募っただけですが、それでも10名が集まりました。『基本は学んだけれどもっと実践をしたい』、『こんな機会を待っていたんです！』というトレイルランナー、ロゲイニングを楽しむ人、ランナー、登山者までさまざまな参加者となりました。スタッフはシリーズを通して担当する田島、ゲストとして世界選手権日本代表経験のある渡辺円香さんが参加しました。

子どもたちに交じってクイック0をやる参加者たちの真剣なこと。もっとやりたい、面白い！走るのはちょっと、、、といていた男性まで必死にかつ楽しんでやっていたのが印象的でした。

またオリエンテーリング特有の記号では、微地形の沢やくぼ地、こぶなどの地図と現地の対応に喜び、『見たものが地図にきちんと描かれているってすごいですね。』『地図を作る人たちすごいです!』という声も聞かれました。



クイックOを楽しむ参加者

園内の植物園で休憩、一通りランチを楽しんだ後は後半戦。みなさんのレベルは思った以上にできていることがわかったので、プランニングと現在地把握する練習を移動しながら行いました。具体的には5人ずつの2つのグループに分かれ、先頭の1人のみが行く場所を先に指示されその通りに行くこと、残りの4人は行く場所は知らず、進むルートから今いる位置を確認しながら止まった場所で今いる場所はどこかを示す。これを順番に交代しながらやりました。みな緊張感あふれ、1時間たつ頃はぐったりしていましたが、自分の思うとおりの場所であったことに喜んでいました。

最後は園内の常設コースを使ったミニレースを行いました。きちんと1分差ごとのスタートにしましたが、なぜかみなスタート同時にビュービュー走って行ってしまいました。今日は走らない、いやだ、といていた登山をしている男の子たちもです。自然とそのような雰囲気になっていたのでしょうか。終わってみると森を走るのは気持ちよいとも。レースの振り返りをしながら円香さんが走ったルートを真剣に聞いていたのが印象的でした。

今回やってみて円香さんと話したのは、彼らはナビゲーションをものすごく楽しんでいるよね、ということです。できてもできなくても。自分自身では設定できない課題を用意してもらい、チャレンジして正解か不正解をきちんと教えてもらい答えがわかることに満足を感じるようです。何となくここだと思うけども合っているかどうかわからない、というのが今の彼ら自身のナビゲーションレベルで、こうやって課題やきっちりした回答を得られクリアになることが、成果と喜びにつながるようでした。



ミニレース後、渡辺さんのルート解説を真剣に聞く参加者

第2回は6/30(日)、埼玉県飯能市の加治丘陵にて『プランニング』をテーマに行いました。このエリアも常設コース(パーマネントコース)が設置され、古いですがオリエンテーリング用のマップとしてきちんとしたものが用意されているので、ナビゲーション練習にはとてもよいです。前回に引き続いての参加者、秋にトレイルランレースに参加するのに地図読みが必須ということで学びに来た、という人から、前日の鎌倉で行われたロゲイニングに参加された人、登山を楽しむ人、もともとオリエンテーリングを楽しまれているお仕事で子どもたちにナビゲーションを教えているから参考にさせていただきたい、と甲府にお住いの清水さんもいらっしやいました。



2人ペアで次の目的地にどう行くかプランを話し合う

最初は方向、地形の確認、さらにはコンパスや地図の持ち方をおさらいしていき、2人グループになって目的地までどう行くか?を考えてその場所まで行く、ということを繰り返しました。ポイントは常設コースのコントロールであったり、目印はないけれど微地形であったりいろいろ混ぜました。2人グループにしたのは、まずは安全管理ができるということ、自分のプランを相

手に言語化して伝えることによって頭の中を整理できること、それらを参加者に説明し、そうさせました。

途中、桜山展望台で一休み。3階から望む遠くの山々を皆で魅入っていました。

ここでも最後はフリー区間のルートチョイスをさせるレッグです。簡単な道走りで距離は長いルートと、距離は短いけれど山を越えてややナビゲーションが必要なルートがありました。みなさんすべて山越えルートを選び、そしてなぜかビュービュー走って行ってしまいました。第1回もそうでしたが、決してこちらからは走れとは言っていない。自然と走りたい!と思ってしまう何かがあるのでしょうか。ちょっと驚きです。



ピークにて。最後の難関目的地にみな頭を悩ます。

イベント終了後は、良ければ一緒に遅いお昼ご飯を食べに行きましょう、と提案したところ、ほとんどのみなさんが参加しました。こうやって仲間としての時間を作っていくのかもしれないですね。

チャレンジ!ナビゲーションは基本的に月1度、テーマを設けて、ジョイントできそうなイベントとコラボしたり独自開催したり、大会にみんなに参加することなどを計画しています。

さっそくクラブ阿闍梨として8月にナイトナビゲーションと暑気払い!を行うことにしました。

また次のコンパス&直進をテーマにした3回目にはいよいよ大学オリエンテーリングクラブに所属している学生も参加。わたしも参加者のみなさんと一緒に、モチベーションをキープしつつ練習もできてしまえるので、とてもよい時間となっています。

(田島利佳)